

このコーナーは、町内で行われたイベントや活動、町民の皆さんの身近で起きたちょっとした出来事など、1カ月のまちの話題を紹介するページです。



桜と味覚を満喫『桜・牡蠣まつり』

第60回あつけし桜・牡蠣まつりが、5月16日から24日までの9日間にわ

たって開催されました。初日の16日(土)には3,300人、

笑顔がいっぱい こどもの日のコンキリエ

5月5日、厚岸味覚ターミナル・コンキリエで、チビっ子アサリつかみどりなど『こどもの日』にちなんだイベントが開催され、多くの観光客などにぎわいました。

この日はさまざまなイベントが行われ、中学生以下限定の『アサリのつかみどり』では、参加した子どもたちは小さな手をいっぱい広げ、一生懸命アサリをつかみ取りしていました。

また『牡蠣の殻当てクイズ』も行われ、透明なケースの中にある牡蠣殻をじっくり眺めながら、クイズに応募していました。ちなみに牡蠣殻の枚数は365枚で、正解者3人には厚岸特産品詰め合わせが後日送られました。

コンキリエにはゴールデンウィーク期間中の5月2日から6日の間、道内外から約9千5百人が訪れ、本格的な観光シーズンを迎えました。



パークゴルフの シーズン到来

5月10日、宮園公園パークゴルフ場がオープンし、多くの人がパークゴルフを楽しみました。

この日は快晴で、オープンを待ちわびていた愛好者は、仲間との会話を楽しみながら、コースを回っていました。

今年芝の状態も良く、宮園公園パークゴルフ場は、例年どおり11月上旬までプレイが楽しめます。



また会場内では、北海道牛乳普及協会による牛乳のPRや、陸上自衛隊第五音楽隊による演奏も行われ、まつりを大いに盛り上げました。

芝生の上で、家族や友人、職場の仲間などが、焼き台を囲みながら楽しいひと時を過ごし、遅い道東の春を満喫しました。

元気な子どもたちで大にぎわい

5月5日、道立厚岸少年自然の家
ネイバル厚岸で、恒例となった『こ

どもの日フェスティバル』が開催され、大勢の親子連れが訪れました。

乗馬や陶芸体験、自然の素材を使った木工体験など、さまざまな催しが行われ、親子が一緒になって楽しみました。

野焼きパン体験では、長い棒の先にパンの生地を巻き付け、炭火で焼き、焼きたてをその場で味わうことができ、順番を待つ長蛇の列ができるほど好評でした。

昼食に用意された好評のランチバイキングは、子どもたちが大好きなメニューがいっぱいで、用意していた500食は完売するほどの人気でした。

子どもたちは「来年もまた来ようね」と、元気な笑顔で一日を過ごしました。



春の森の中で 植物などを観察しました

5月10日、『やちっこクラブ』の初の観察会を愛冠で開催しました。

この『やちっこクラブ』は、町内の小中学生向けに本年度から始めた会員制の自然体験事業で、生き物の普段見ることができない、季節ごとの美しく不思議な姿を観察したり、自然を体感することを目的としています。

この日は会員登録した小学3年生から中学3年生の7人と、サポーター登録した大人10人が参加しました。『春の植物』をテーマに、樹木園の中でフデリンドウやエゾエンゴサクなどの植物のほか、沢地の池にあったエゾサンショウウオの卵なども見て歩きました。

参加した子どもたちは、普段あまり歩くことのない森の中で、さまざまな春の植物を観察することができ、この観察会は今後も、月1回程度開催されます。



抹茶を手に 優雅に桜を鑑賞

5月17日、厚岸町ボランティア連絡協議会(堤美津子会長)主催による『お茶で一服、さくら咲く国泰寺で』が、国泰寺境内で開催されました。

今年で2回目となるこの茶会は、にぎやかな子野日公園とは異なり、静かに桜を楽しむことができ、訪れた人は和菓子と抹茶をいただきながら、優雅に桜を鑑賞しました。

木づちを片手に キノコの森づくり

5月16日、森林センターで『キノコの森づくり』が行われ、家族連れなど54人が参加しました。

鉋路森づくりセンター職員や町職員の指導を受けながら、長さ約90センチに切りそろえたナラの木に20個程度の穴をドリルであけ、その穴にシイタケの菌が詰まった種駒を、一つひとつ木づちなどで打ち込みました。

子どもたちは慣れない手つきながらも、頑張って種駒を打ち込み、用意された200本の木に4,000個の種駒の植菌作業を、1時間足らずで終わりました。

作業終了後は、2年前に菌を植えたほだ木からシイタケを収穫し、帰りには菌床がプレゼントされ、それぞれが自宅に持ち帰り育てることにしました。